

Ⅲ 循環型社会の形成

1 清掃事業の概要

(1) 循環型社会の形成に向けた取組

ごみの問題は、中間処理施設の処理能力の限界や最終処分場の残余量の問題であるばかりでなく、今や環境問題として社会的に深刻であり、重要な行政課題となっています。また、資源の保護や環境保全の面からも重要な課題です。少しでもごみを減らすためには、どうしたらよいか、どのような暮らし方が環境への負荷を少なくするのか、市民・事業者・行政が連携し懸命になって取り組んでいかなければなりません。

従来的大量生産、大量消費、大量廃棄型の社会構造は、私たちに多くの恩恵をもたらしましたが、一方で生産、流通、消費、そして廃棄物処理の各過程において多くの資源・エネルギーを消費し、多大な環境負荷をもたらしています。

小平市ではこれまで、ごみの適切な処理とリサイクル推進を主要な課題として取組を進め、市民と事業者の協力の下、資源物の分別収集を市内全域で実施し、リサイクル率を高めてきました。その結果、ごみの処理量は減り、その分多くの物を資源として再利用することができるようになりました。

しかし、ここ数年ごみと資源物の総量はほぼ横ばいの状態が続いています。

小平市は、平成 31 (2019) 年 4 月 1 日から実施している家庭ごみ有料化及び戸別収集など、廃棄物の発生抑制を最優先に掲げた施策を実施するとともに、生ごみを食物資源として循環させる事業や全量プラスチック製容器包装の分別収集・資源化、事業系ごみの排出指導、新たな分別収集、資源化の検討、中間処理施設の更新など、さまざまな課題について取り組んでいます。

これらの課題等にさらに取り組むために、市では、廃棄物の減量と処理に係る事業の根幹となるものとして、平成 25 (2013) 年度に「小平市一般廃棄物処理基本計画」を策定し、平成 29 (2017) 年度に中間見直しを行いました。この計画に基づいて、循環型社会の形成に向けた取組を行っています。

(2) 清掃費の推移

① 清掃費財源の年度別推移 (決算額)

清掃費は小平・村山・大和衛生組合の新施設の整備 (更新) による負担金の増加などにより、増加傾向で推移しています。

【清掃費財源の年度別推移 (決算額)】

(単位：千円)

年度	一般財源	ごみ処理 手数料	し尿処理 手数料	雑排水 手数料	国・都 補助金	基金 繰入金	その他	合計
2016	2,021,405	138,171	12,450	15	419,110	173,654	0	2,764,805
2017	2,153,258	141,514	9,752	0	432,860	171,280	18,495	2,927,159
2018	2,779,299	171,975	7,794	0	421,778	235,141	819,300	4,435,287
2019	1,778,742	714,061	10,583	0	692,590	178,809	42,415	3,417,200
2020	2,207,440	663,355	6,529	0	405,076	210,876	51,545	3,544,821

※端数処理のため、誤差が生じることがあります。

【ごみ減量・リサイクル推進基金への積立額の推移】（単位：千円）

年度	積立額	年度末 現在額
2016	149,771	467,654
2017	172,437	468,811
2018	159,419	393,089
2019	126,579	346,859
2020	95,317	231,564

②清掃費の年度別推移（決算額）

（単位：千円）

年度	総務費		清掃事務所 管理費		塵芥処理費		し尿処理費		資源循環 推進費		歳出額合計	
	決算額	%	決算額	%	決算額	%	決算額	%	決算額	%	決算額	%
2016	111,717	4.0	928	0.0	2,087,771	75.5	55,506	2.0	508,883	18.4	2,764,805	100.0
2017	141,185	4.8	903	0.0	2,159,587	73.8	55,968	1.9	569,517	19.5	2,927,159	100.0
2018	153,862	3.5	0	0.0	2,396,106	54.0	54,533	1.2	1,830,786	41.3	4,435,287	100.0
2019	121,214	3.5	0	0.0	2,650,319	77.6	54,738	1.6	590,929	17.3	3,417,200	100.0
2020	104,655	3.0	0	0.0	2,790,228	78.7	54,419	1.5	595,519	16.8	3,544,821	100.0

※端数処理のため、歳出額合計に誤差が生じることがあります。

③令和3（2021）年度予算額

一般会計総予算額	68,670,000千円
清掃費総予算額	3,538,090千円
一般会計に対する割合	5.2%

注) 当初予算ベース

④部門別処理原価

ア ごみ処理原価

2018年度処理量		40,601 t				
	収集部門	中間部門	最終部門	計	t 原価	
人件費	85,866千円			85,866千円	2,115円	
経費	984,586千円	919,105千円	495,392千円	2,399,083千円	59,089円	
減価償却費	272千円			272千円	7円	
計	1,070,724千円	919,105千円	495,392千円	2,485,221千円	61,211円	
t 原価	26,372円	22,637円	12,201円	61,211円	前年度比較	5.3%増
2019年度処理量		33,588 t				
	収集部門	中間部門	最終部門	計	t 原価	
人件費	66,500千円			66,500千円	1,980円	
経費	1,167,812千円	987,478千円	499,047千円	2,654,337千円	79,026円	
減価償却費	0千円			0千円	0円	
計	1,234,312千円	987,478千円	499,047千円	2,720,837千円	81,006円	
t 原価	36,749円	29,400円	14,858円	81,006円	前年度比較	32.3%増
2020年度処理量		35,216 t				
	収集部門	中間部門	最終部門	計	t 原価	
人件費	53,883千円			53,883千円	1,530円	
経費	1,164,214千円	1,007,000千円	466,309千円	2,637,523千円	74,896円	
減価償却費	0千円			0千円	0円	
計	1,218,097千円	1,007,000千円	466,309千円	2,691,406千円	76,426円	
t 原価	34,589円	28,595円	13,241円	76,426円	前年度比較	5.6%減

イ 資源物処理原価

2018年度処理量		12,701 t			
	収集部門	中間部門	計	t 原価	
人件費	42,933千円	10,733千円	53,666千円	4,225円	
経費	19,631千円	1,811,374千円	1,831,005千円	144,162円	
減価償却費	136千円	9,013千円	9,149千円	720円	
計	62,700千円	1,831,120千円	1,893,820千円	149,108円	
t 原価	4,937円	144,171円	149,108円	前年度比較	209%増

2019年度処理量		13,058 t			
	収集部門	中間部門	計	t 原価	
人件費	33,250千円	8,313千円	41,563千円	3,183円	
経費	21,665千円	569,924千円	591,589千円	45,305円	
減価償却費	0千円	67,544千円	67,544千円	5,173円	
計	54,915千円	645,781千円	700,696千円	53,660円	
t 原価	4,205円	49,455円	53,660円	前年度比較	64%減

2020年度処理量		13,874 t			
	収集部門	中間部門	計	t 原価	
人件費	26,941千円	6,735千円	33,676千円	2,427円	
経費	19,956千円	737,750千円	757,706千円	54,613円	
減価償却費	380千円	58,531千円	58,911千円	4,246円	
計	47,277千円	803,016千円	850,293千円	61,287円	
t 原価	3,408円	57,879円	61,287円	前年度比較	14.2%増

ウ 下水処理原価

※2017年以降は処理なし。

エ し尿処理原価

2018年度処理量		265.8 kl (し尿+汚泥)			
	収集部門	中間部門	最終部門	計	kl 原価
人件費	10,733千円	—	—	10,733千円	40,380円
経費	26,272千円	—	28,305千円	54,577千円	205,331円
減価償却費	0千円	—	—	0千円	0円
計	37,005千円	0千円	28,305千円	65,310千円	245,711円
kl 原価	139,221円	0円	106,490円	245,711円	前年度比較 27.6%増

2019年度処理量		383.2 kl (し尿+汚泥)			
	収集部門	中間部門	最終部門	計	kl 原価
人件費	8,313千円	—	—	8,313千円	21,694円
経費	26,334千円	—	28,158千円	54,492千円	142,203円
減価償却費	0千円	—	—	0千円	0円
計	34,647千円	0千円	28,158千円	62,805千円	163,896円
kl 原価	90,415円	0円	73,481円	163,896円	前年度比較 33.3%減

2020年度処理量		227.9 kl (し尿+汚泥)			
	収集部門	中間部門	最終部門	計	kl 原価
人件費	6,735千円	—	—	6,735千円	29,552円
経費	26,845千円	—	27,910千円	54,755千円	240,259円
減価償却費	0千円	—	—	0千円	0円
計	33,580千円	0千円	27,910千円	61,490千円	269,811円
kl 原価	147,345円	0円	122,466円	269,811円	前年度比較 64.6%増

⑤ごみ処理量と資源化量の推移

品目	2016年度		2017年度		2018年度		2019年度		2020年度	
①人口（人）	189,955		191,064		193,588		194,941		195,207	
②燃やすごみ										
年間排出量（t）	収集 29,055	合計 32,992	28,887	32,920	29,414	33,685	26,804	30,922	28,129	31,962
	持込 3,937		4,033		4,271		4,118		3,833	
一人1日あたり排出量（g）	475.8		472.1		476.7		433.4		448.6	
対前年比（%）	-1.1%		-0.2%		2.3%		-8.2%		3.4%	
③燃やさないごみ										
年間排出量（t）	収集 4,463	合計 4,698	4,371	4,586	5,377	5,598	1,409	1,467	1,780	1,818
	持込 235		215		221		58		38	
一人1日あたり排出量（g）	67.8		65.8		79.2		20.6		25.5	
対前年比（%）	-11.5%		-2.4%		22.1%		-73.8%		23.9%	
④粗大ごみ										
年間排出量（t）	収集 1,068	合計 1,154	1,057	1,079	1,267	1,318	1,137	1,199	1,403	1,436
	持込 86		22		51		62		33	
一人1日あたり排出量（g）	16.6		15.5		18.7		16.8		20.2	
対前年比（%）	8.8%		-6.5%		22.2%		-9.0%		19.8%	
⑤ごみ処理量合計（②+③+④）										
年間排出量（t）	収集 34,586	合計 38,844	34,315	38,585	36,058	40,601	29,350	33,588	31,312	35,216
	持込 4,258		4,270		4,543		4,238		3,904	
一人1日あたり排出量（g）	560.2		553.3		574.6		470.8		494.3	
対前年比（%）	-2.2%		-0.7%		5.2%		-17.3%		4.8%	
⑥資源（行政回収）										
ビン（t）	1,298		1,276		1,282		1,169		1,320	
カン（t）	490		480		484		442		497	
紙類（t）	収集 5,593	合計 5,611	5,426	5,444	5,854	5,877	5,782	5,795	6,212	6,232
	持込 18		18		23		13		20	
古布・ふとん（t）	843		894		1,138		854		1,033	
紙パック（t）	13		8		7		8		4	
白色トレイ（t）	2		2		2		0		0	
ペットボトル（t）	579		597		669		453		496	
プラスチック製容器包装（t）	640		679		745		1,754		1,894	
金属類（t）	90		95		113		139		165	
剪定枝（t）	45		48		86		3		4	
生ごみ一次処理物（t）	33		33		30		24		18	
食物資源（生ごみ）（t）	60		61		71		82		93	
キャップ（t）	9		9		9		1		0	
陶磁器（t）	7		5		6		14		18	
スプレー・ガス缶（t）	31		35		35		39		44	
ライター（t）	2		2		2		3		3	
小型家電（t）	3		3		6		8		8	
⑦資源（優良粗大ごみ）（t）	25		24		26		31		36	
⑧資源（有害性資源）（t）	68		72		71		60		77	
⑨資源（集団回収）（t）	2,044		2,005		2,042		2,179		1,932	
⑩資源化量合計（⑥+⑦+⑧+⑨）										
年間排出量（t）	収集 11,875	合計 11,893	11,754	11,772	12,678	12,701	13,045	13,058	13,854	13,874
	持込 18		18		23		13		20	
一人1日あたり排出量（g）	171.5		168.8		179.7		183.0		194.7	
対前年比（%）	-2.3%		-1.0%		7.9%		2.8%		6.2%	
⑪廃棄物総量（⑤+⑩）										
年間排出量（t）	収集 46,461	合計 50,737	46,069	50,357	48,736	53,302	42,395	46,646	45,166	49,090
	持込 4,276		4,288		4,566		4,251		3,924	
一人1日あたり排出量（g）	731.8		722.1		754.3		653.8		689.0	
対前年比（%）	-2.2%		-0.7%		5.8%		-12.5%		5.2%	
⑫資源化率（%）	23.4%		23.4%		23.8%		28.0%		28.3%	
⑬組合資源化量（t）	1,047		1,032		1,300		801		2,390	
⑭総資源化率（%）	25.5%		25.4%		26.3%		29.7%		33.1%	

※人口は、毎年度末（3月31日時点）です。

※1日あたり排出量は、年間総排出量を年間日数で除したものです。

※廃棄物総量、資源化量合計及び資源化率には、組合資源化量を含みません。

※廃棄物総量はごみ処理量合計と資源化量合計の合計となります。

※資源化量には、協力店で回収（拠点回収）した資源（紙パック、白色トレイ）を含みます。

※資源化率＝資源化合計／ごみ総量

※総資源化率＝（資源化量合計＋組合資源化量）／ごみ総量

※端数処理のため、誤差が生じることがあります。

※紙類とは、新聞紙、雑誌・雑がみ、段ボール、シュレッダーくずのことです。

※組合資源化量は、燃やすごみ、燃やさないごみから選別等を行い、3市の合計から按分したものです。

※行政回収量は、拠点回収量を含みます。

ごみ処理量、資源化量ともに増加しています。そのうち、古布・ふとん、ペットボトルは減少から増加に転じ、またプラスチック製容器包装、金属類は年々増加傾向にあります。

<参考>

【小平市一般廃棄物処理基本計画 数値目標の推移】

年度	2016	2017	2018	2019	2020	現計画目標値 2022年度
排出物原単位 (g/人日)	731.8	722.1	754.3	653.8	689.0	640.0g/人日
処理ごみ量 原単位(g/人日)	560.2	553.3	574.6	470.8	494.3	480.0g/人日
収集ごみ量 原単位(g/人日)	498.8	492.1	510.3	411.4	439.4	モニター指標 (毎年度)
持込ごみ量 (t/年)	4,258	4,269	4,542	4,239	3,905	モニター指標 (毎年度)
収集時リサイクル 率(%)	23.4	23.4	23.8	28.0	28.3	モニター指標 (毎年度)
最終処分量 (t/年)	4,573	4,542	4,736	3,927	3,396	モニター指標 (毎年度)
温室効果ガス排出 量(kg/人日)	0.28	0.28	0.27	0.28	0.23	モニター指標 (毎年度)
資源物混入率 (%)	可燃11.8 不燃16.4	—				モニター指標

排出物原単位は、市が処理に関与する廃棄物を市民一人、1日当たりの量に換算したもので、発生抑制がどのくらい図られているかがわかる指標となります。一人1日当たりの排出量が小さくなればなるほど、発生抑制が図られたといえます。

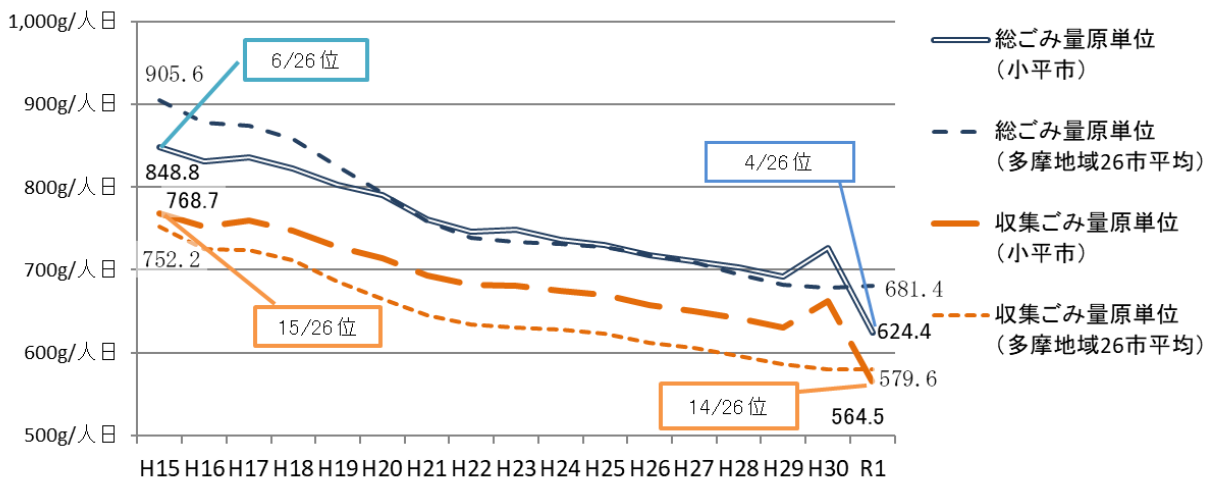
令和4(2022)年度の目標値は、一人1日当たり640.0gと設定しています。令和2(2020)年度は689.0gで前年度と比較して、35.2g、約5.4%増となっています。

また、処理ごみ量原単位は、ごみ・資源物総量のうち、ごみのみの量を市民一人1日当たりに換算したもので、ごみの発生抑制とともに、資源化品目の拡大と分別の徹底の効果を計る指標となります。

令和4(2022)年度の目標値は、市民一人1日当たり480.0gと設定しています。令和2(2020)年度は494.3gで前年度と比較して、23.5g、約5.0%増となっています。

<参考>

【小平市と多摩地域 26 市平均との比較】



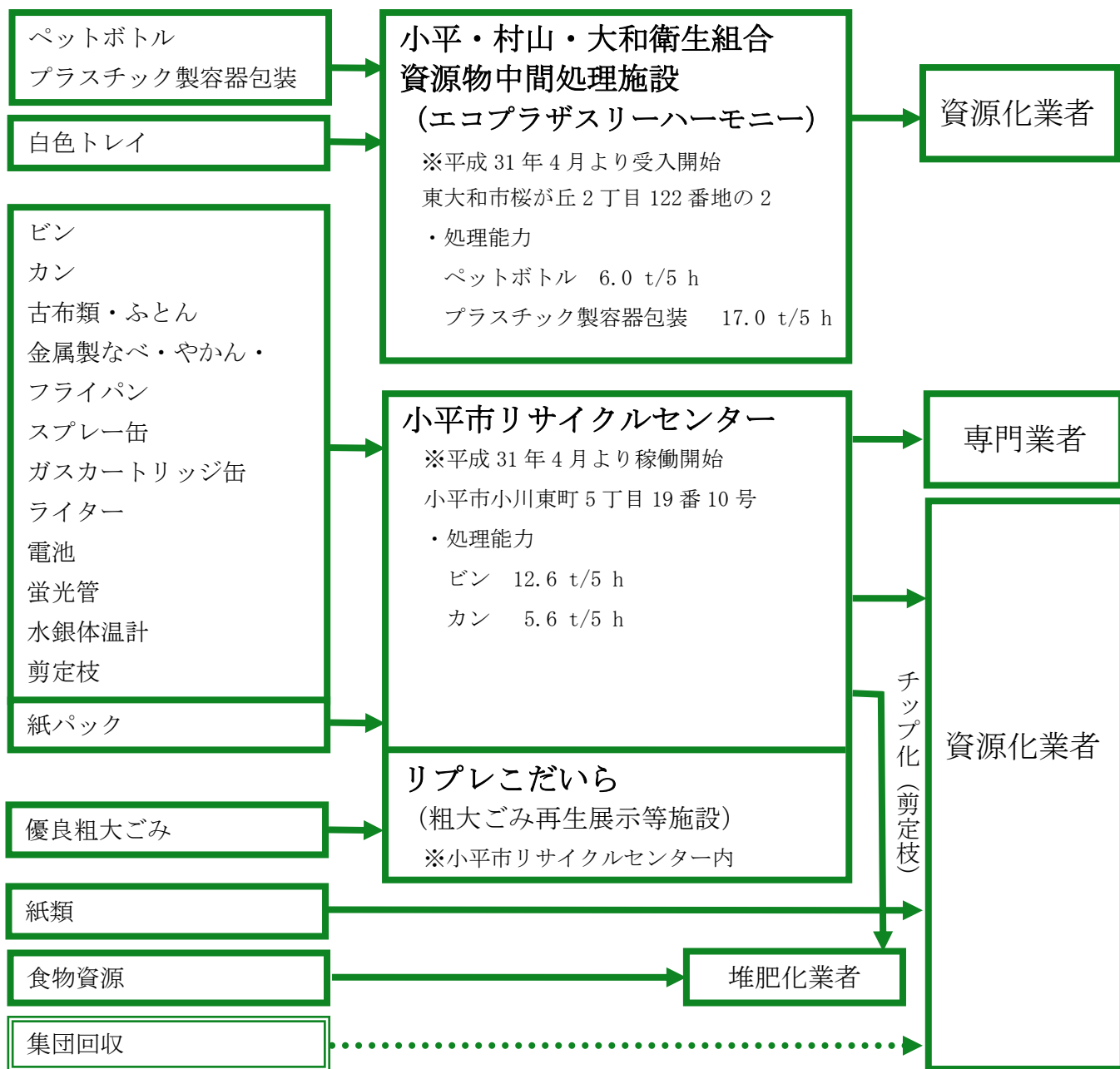
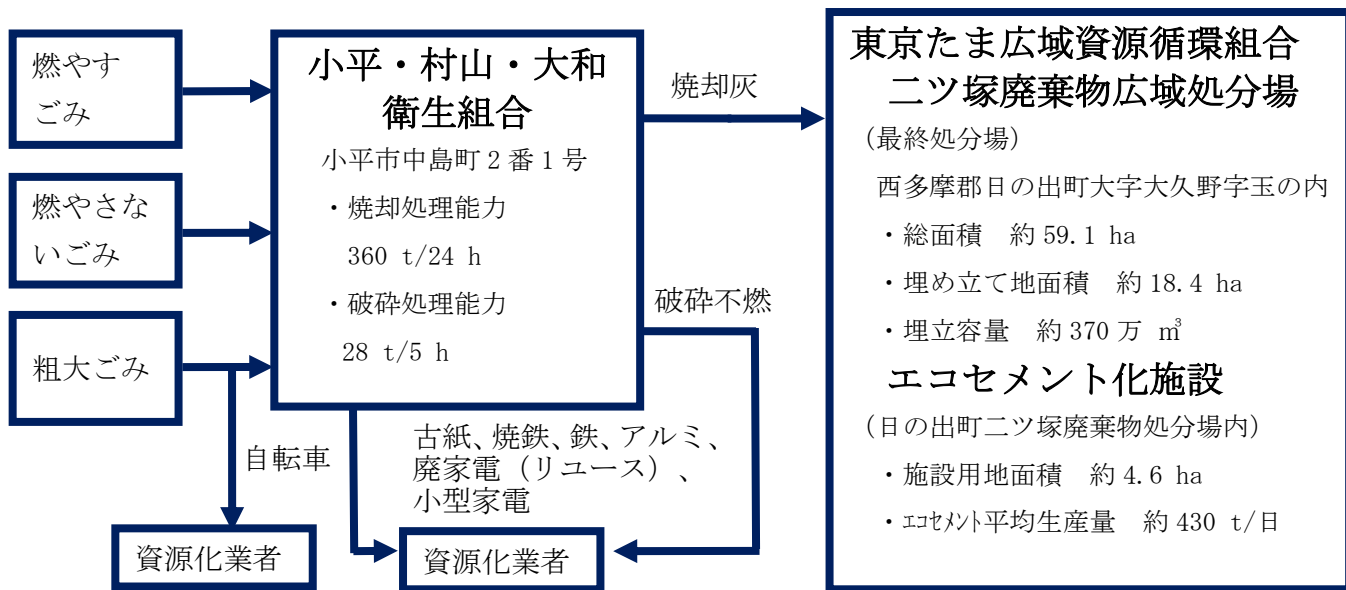
東京市町村自治調査会が作成している「多摩地域ごみ実態調査」の令和元（2019）年度統計によると、小平市は、市民一人1日当たりの集団回収を除く、ごみ・資源物総量を示した「総ごみ量原単位」は、多摩地域26市中で少ない方からみて4番目となっています。また、総ごみ量のうち、市が収集したごみと資源物の総量を示した「収集ごみ量原単位」は、多摩地域26市中で少ない方からみて、14番目となっています。



収集の様子



【資源とごみの処理の流れ】（令和2（2020）年度）



2 ごみ処理事業の概要

(1) ごみ処理事業の概要

小平市では、昭和 40（1965）年に東大和市、武蔵村山市と共同して小平・村山・大和衛生組合を設立し、ごみの焼却処理等をしてきましたが、その間ごみ量の増大とごみ質の変化等に対応するため何度となく施設の増改築を繰り返し現在に至っています。また、より環境に配慮した清掃工場とするためにバグフィルターや白煙防止装置の設置を実施してきました。

そして、施設の老朽化・旧式化等による課題に対応するため、平成 26（2014）年度に「3 市共同資源化事業基本構想」を策定し、資源物処理施設や不燃・粗大ごみ処理施設、ごみ焼却施設の整備・更新について方針等を定めました。

その後、平成 27（2015）年度に「（仮称）3 市共同資源物処理施設整備実施計画」及び「（仮称）不燃・粗大ごみ処理施設整備基本計画」を策定し、平成 28（2016）年度より小平・村山・大和衛生組合資源物中間処理施設の設計・建設工事を、平成 29（2017）年度より不燃・粗大ごみ処理施設の設計・建設工事をそれぞれ開始しました。

そして、平成 31（2019）年 4 月に小平・村山・大和衛生組合資源物中間処理施設がしゅん工し、資源物の受け入れを開始しました。また、令和 2（2020）年 3 月に不燃・粗大ごみ処理施設がしゅん工し、同年 4 月より稼働を開始しました。

現在は、（仮称）新ごみ焼却施設の整備に向けて準備を進めており、稼働予定は令和 7（2025）年度となっています。

ごみの最終処分地は、昭和 55（1980）年に東京都三多摩地域廃棄物広域処分組合（現・東京たま広域資源循環組合）を設立し、昭和 59（1984）年から日の出町の谷戸沢最終処分場で埋め立てを開始し、平成 10（1998）年には埋立が終了しましたが、続いて同じ日の出町に二ツ塚最終処分場を建設し、現在組織市 25 市 1 町のごみを搬入しています。また、二ツ塚最終処分場の延命化及び資源の再利用化を目的として、焼却灰をセメントにリサイクルする「エコセメント化事業」に取り組んでおり、現在、焼却灰すべてがエコセメントとして、利用されています。

市では、平成 5（1993）年度に市内全域での資源の分別収集を行うため収集日の変更を実施し、平成 8（1996）年度には粗大ごみを有料としました。また、平成 10（1998）年度には収集日を再度変更して排出抑制と資源化の強化に取り組み、平成 12（2000）年 10 月には事業系ごみの全面有料化を実施する等、自己処理の徹底、ごみの排出抑制、資源の有効利用の促進はもとより、中間処理施設への負担軽減や最終処分場への搬入量の減量化に努力しています。

一方、平成 16（2004）年 8 月より小平市粗大ごみ受付センターを開設し、受付日時の拡大等のサービス向上を図るとともに、受付業務の迅速化、効率化を図り、平成 17（2005）年 11 月から、インターネット受付を開始しました。

平成 19（2007）年 4 月には、小平市清掃事業協同組合と「災害時におけるごみ、し尿、がれきの処理活動等の応援に関する協定書」を締結し、災害時の協力体制を整えました。

平成 20（2008）年度には、リサイクルセンター、小平・村山・大和衛生組合（こもれびの足湯）などを巡る中間処理施設の見学会、小学校の環境学習では、清掃事業協同組合の協力による収集車の乗車体験、収集員からの体験談など、ごみ処理の現場をより身近に感じ取れる機会を設けました。

平成 21（2009）年度には、市と清掃事業協同組合で「新型インフルエンザに係る業務継続計画」を作成しました。そして、平成 28（2016）年度には、小平市清掃事業協同組合と高齢者等の見守りに関わる協定を締結しました。

令和元（2019）年度には、4月1日から家庭ごみ有料化及び戸別収集へ移行しました。

今後も、廃棄物の発生抑制、繰り返し使う再使用、そして資源としての再利用やエネルギーとしての利用に努め、さらに再利用ができない物については環境に配慮した適正な処理をする等、循環型社会の構築に向けて市民、事業者、行政が一体となって、持続可能な施策の取組や新たなごみ減量策を行っていかねばなりません。

(2) 粗大ごみ収集

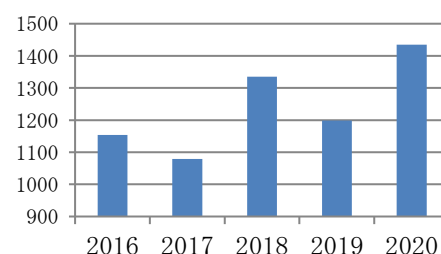
粗大ごみの受付件数は、令和元（2019）年度は受付件数、収集量ともに減少しましたが、令和2（2020）年度は前年を大きく上回りました。

月別にみた場合、年末の大掃除の12月や引っ越しの時期とも重なる3月が多い傾向にあります。

①粗大ごみ収集年度別推移

年度	粗 大 ご み			
	受付件数 (件)	対 前年比	収集量(t)	対 前年比
2016	47,210	3.0%	1,154	11.0%
2017	50,343	6.6%	1,079	-6.5%
2018	59,640	18.5%	1,318	22.2%
2019	53,522	-10.3%	1,199	-9.0%
2020	69,332	29.5%	1,436	19.8%

収集量(t) 粗大ごみ収集量の推移



②粗大ごみ等処理受付件数（令和2（2020）年度月例）

(単位：件)

	収 集	持 込	臨 時	合 計
4月	5,295	22	0	5,317
5月	6,123	5	4	6,132
6月	5,673	27	2	5,702
7月	5,562	24	2	5,588
8月	6,725	47	0	6,772
9月	5,515	30	0	5,545
10月	5,713	31	0	5,744
11月	5,784	27	2	5,813
12月	6,550	42	0	6,592
1月	5,143	25	0	5,168
2月	5,031	18	0	5,049
3月	6,218	25	3	6,246
合 計	69,332	323	13	69,668



収集された粗大ごみ

(3) 不法投棄・動物の死体処理

不法投棄の品目は多岐にわたり、分別されていない未分別ごみ、敷物、板などがあります。動物の死体は、飼い主がいない猫が多く処理されています。

年度	不法投棄		動物の死体（匹）						計
	家電リサイクル （個）	その他 （個）	犬		猫		その他		
			飼	飼い主が いない	飼	飼い主が いない	飼	飼い主が いない	
2018	9	190	13	3	19	185	4	101	325
2019	5	197	4	0	19	172	1	177	373
2020	3	166	7	1	19	118	4	193	342

※家電リサイクルとは、エアコン、テレビ、冷蔵庫・冷凍庫、洗濯機、衣類乾燥機で市では収集していない品目になります。

(4) ごみ投入実績比較 | 令和2（2020）年度

燃やすごみは、ごみ全体の90%以上を占めています。

（単位：t）

	収集	持込	計	割合
燃やすごみ	28,129	3,833	31,962	90.8%
燃やさないごみ	1,780	38	1,818	5.2%
粗大ごみ	1,403	33	1,436	4.0%
計	31,312	3,904	35,216	100.0%
%	88.9%	11.1%	100.0%	-

※持込には、廃棄物の処理及び清掃に関する法律第七条の許可業者、相対契約、臨時持込による処分が含まれます。

(5) ごみ組成分析調査結果 | 令和元（2019）年度 ※令和2年度実施なし

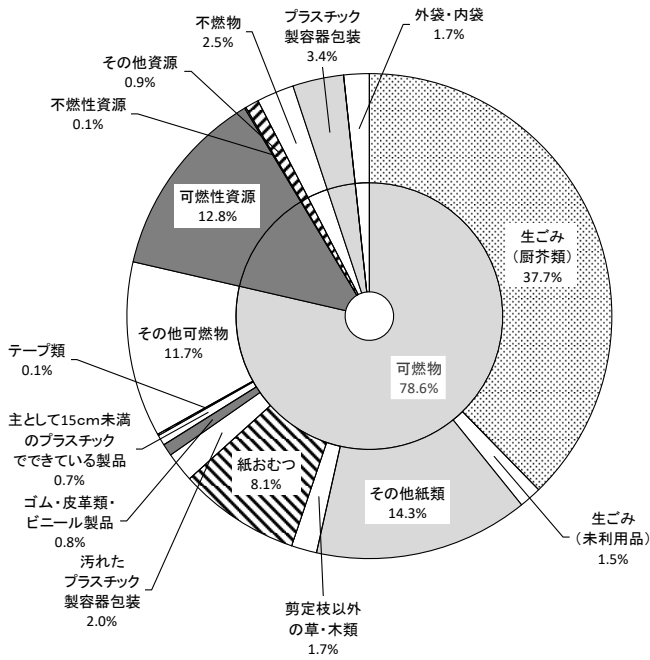
燃やすごみの中には19.7%、燃やさないごみの中には26.5%、プラスチック製容器包装の中には21.6%の分別不適物が入っており、適正な分別をしていく必要があります。

（単位：%）

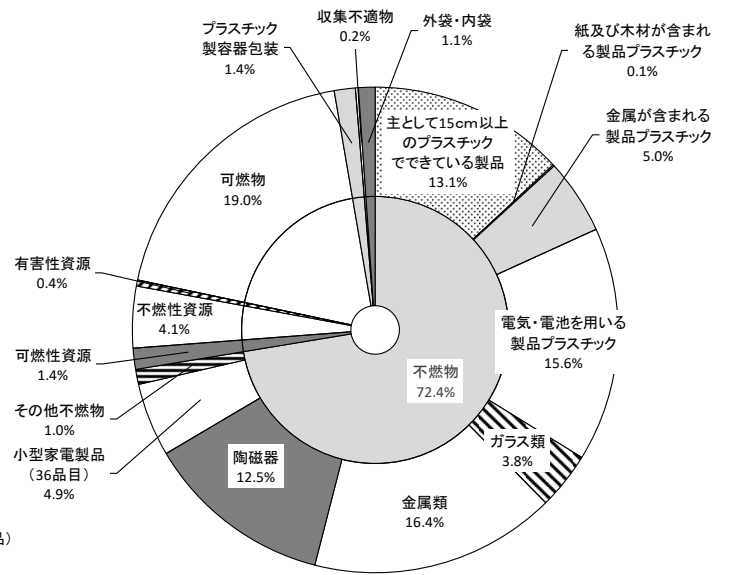
	可燃性 資源	不燃性 資源	有害性 資源	その他 資源	可燃物	不燃物	プラスチック 製容器包装	収集 不適物	外袋・ 内袋	適正 分別	分別 不適物
燃やすごみ	12.8	0.1	0.0	0.9	78.6	2.5	3.4	0.0	1.7	80.3	19.7
燃やさないごみ	1.4	4.1	0.4	0.0	19.0	72.4	1.4	0.2	1.1	73.5	26.5
プラスチック製容器包装	0.3	1.1	0.2	1.0	14.1	4.9	73.3	0.0	5.1	78.4	21.6

※ごみ中の水分を含んだ状態での分析（湿ベース）

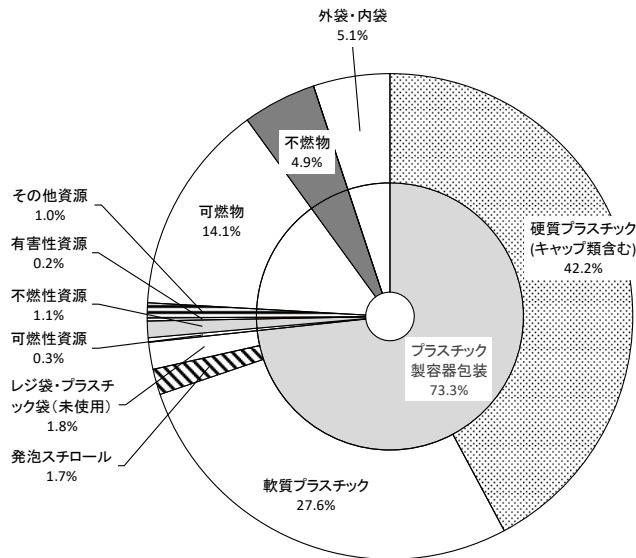
燃やすごみ組成



燃やさないごみ組成



プラスチック製容器包装組成



(6) ごみ処理施設

①中間処理施設

小平市のごみは、小平市・東大和市・武蔵村山市の3市で構成される小平・村山・大和衛生組合によって処理されています。

名称	小平・村山・大和衛生組合		
所在地	小平市中島町2番1号		
電話番号	(042)341-4345		
敷地面積	約16,700 m ² (組合所有 約9,200 m ² 、小平市借地 約6,500 m ²)		
施設概要	不燃物積替場	昭和43(1968)年12月竣工 約690 m ²	
	廃水処理施設	昭和50(1975)年3月竣工 51 m ³ /24 h	
		昭和63(1988)年3月竣工 無放流化に改良 令和3(2021)年3月 運転終了	
	粗大ごみ処理施設 (破碎選別施設)	昭和50(1975)年10月竣工 75 t/5 h 平成10(1998)年3月選別装置改造 令和2(2020)年3月 運転終了	
	不燃・粗大ごみ処理施設 (破碎選別施設)	令和2(2020)年3月竣工	
	焼却施設 (3号炉)	昭和50(1975)年3月竣工 150 t/24 h 平成2(1990)年11月 大規模改造 平成15(2003)年3月バグフィルター設置 令和2(2020)年12月 運転終了	
		炉形式	全連続燃焼式ストーカ炉
		工場棟	鉄筋コンクリート・鉄骨造 地上3階、地下2階
		煙突	溶接鋼板製 地上59.5 m
	焼却施設 (4・5号炉)	昭和61(1986)年11月竣工 平成15(2003)年3月バグフィルター設置 105 t/24 h×2炉	
炉形式		全連続燃焼式ストーカ炉	
工場棟		鉄筋コンクリート・鉄骨造 地上4階、地下1階	
煙突		外筒：鉄筋コンクリート造 内筒：鋼板製 地上100 m	
沿革	昭和35(1960)年	当時の小平町が現在の場所をごみ処理施設に都市計画決定し、焼却場を建設	
	昭和40(1965)年 2月1日	3市による一部事務組合を設立、共同処理事業に移行。小平市施設を引継ぎ処理	
	昭和46(1971)年以降	2号炉等、人口急増、ごみ増等に対し施設拡充	



小平・村山・大和衛生組合の外観

みんなでごみを
へらすンジャー！！



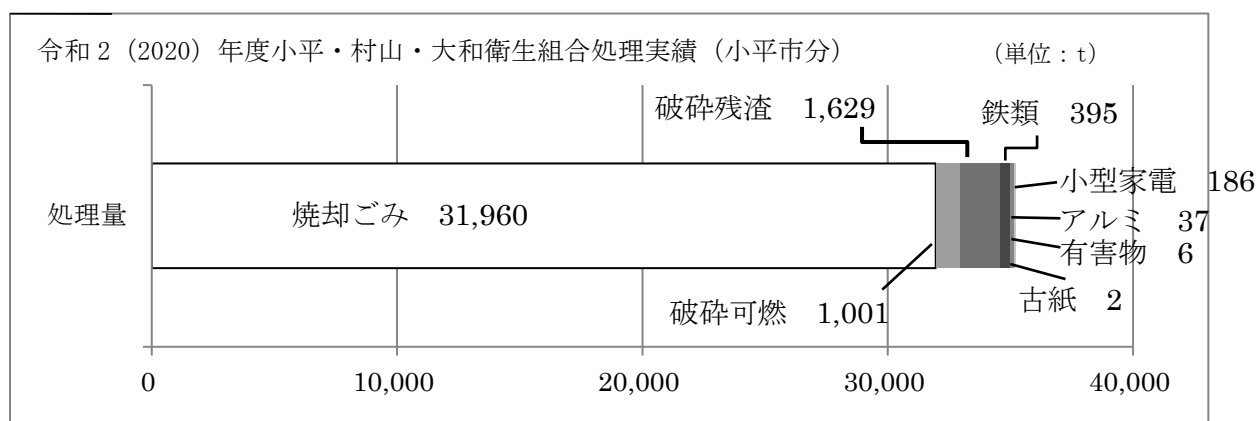
②小平・村山・大和衛生組合投入実績表

3市のごみの投入量は下表のとおりとなっています。また、投入割合は、令和2（2020）年度実績によると、小平市が52%、東大和市が24%、武蔵村山市が24%となっています。

（単位：t）

年度	小平市		東大和市		武蔵村山市		合計	内訳（3市分）					
	投入量	投入割合	投入量	投入割合	投入量	投入割合		燃やすごみ		燃やさないごみ		粗大ごみ	
								量	割合	量	割合	粗大	割合
2016	38,844	56%	15,388	22%	15,542	22%	69,774	61,736	88%	6,310	9%	1,730	2%
2017	38,585	56%	15,392	22%	15,494	22%	69,471	61,622	89%	6,207	9%	1,642	2%
2018	40,601	57%	15,173	21%	15,487	22%	71,261	62,099	87%	7,262	10%	1,900	3%
2019	33,588	51%	15,753	24%	16,339	25%	65,680	60,436	92%	3,290	5%	1,954	3%
2020	35,216	52%	16,094	24%	16,340	24%	67,650	61,632	91%	3,756	6%	2,262	3%

※端数処理のため、小平・村山・大和衛生組合の数字とは異なる場合があります。



焼却量 32,961 t = 燃やすごみ 31,960 t（古紙 2 t 除く） + 破碎可燃 1,001 t → 焼却残灰 3,396 t

焼却残灰 3,396 t → エコセメント化

埋立処分量なし 破碎残渣 1,629 t 資源化

③小平・村山・大和衛生組合ダイオキシン類の測定結果

令和2（2020）年度のダイオキシン類の測定結果は、全ての炉で国の基準値を下回っています。

	測定項目	排出ガス	焼却灰	ばいじん	排水	汚泥
		(煙突)				
		(単位)	(ng-TEQ/m ³ N)	(ng-TEQ/g)	(ng-TEQ/g)	(pg-TEQ/l)
	基準値	1	3	3	10	3
3号炉	測定日：R2.6.5	0.0460	0.0034	0.16	0.00022 (採取日： R2.6.5)	0.15 (採取日： R2.6.5)
4号炉	測定日：R2.6.1	0.2000	0.0340	1.50		
5号炉	測定日：R2.10.16	0.0002	0.0066	0.15		

※測定結果は、コプラナーPCBを含んだ値です。

※1 ng（ナノグラム）は10億分の1グラムです。

※1 pg（ピコグラム）は1兆分の1グラムです。

※TEQは、毒性等量のこと、ダイオキシン類の量をダイオキシン類の中で最も毒性の強い2,3,7,8-四塩化ダイオキシンの毒性等量に換算した数値です。

※焼却灰、ばいじん（飛灰）、ガス冷却灰ダスト及び汚泥の基準は、薬剤処理等の判断基準です。
 全ての焼却施設において、薬剤処理を実施しています。

※焼却炉の集じん装置は、バグフィルターです。

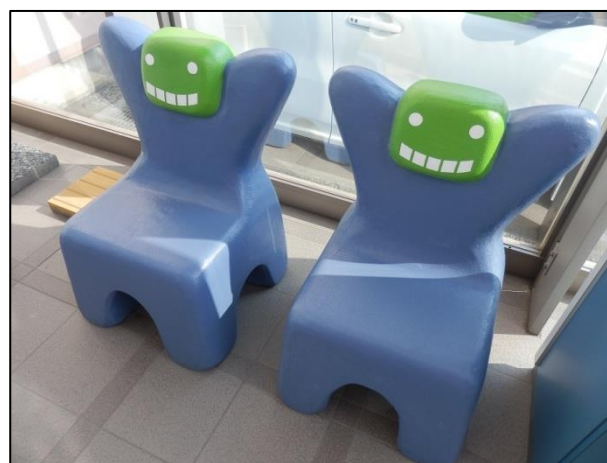
④最終処分場

小平・村山・大和衛生組合で中間処理をした後の焼却残渣や破砕不燃物は、25市1町共同による東京たま広域資源循環組合でエコセメント化（エコセメントの原料として資源化）と最終処分（埋立）が行われています。

名称	東京たま広域資源循環組合		
所在地	西多摩郡日の出町大字大久野 7642 番地		
電話番号	(042) 597-6151		
構成団体	25 市 1 町		
処分場の規模	面積	用地面積	59.1 ha
		開発面積	33.3 ha
		埋立地面積	18.4 ha
		管理施設等面積	14.9 ha
		残存緑地面積	25.8 ha
	埋立容量	全体埋立容量	約 370 万 m ³
		廃棄物埋立容量	約 250 万 m ³
覆土容量		約 120 万 m ³	
埋立進捗率	44.7%（平成 30（2018）年度 年間進捗率 0.1%未済）		
エコセメント化施設	施設用地面積	4.6 ha	
	エコセメント平均生産量	約 430 t/日	



エコセメント化施設の全景（平成 30 年（2018）7 月撮影）



エコセメントで造られたベンチ

⑤最終処分場搬入配分量及び実績

小平・村山・大和衛生組合で焼却、破碎処理した焼却灰は、東京たま広域資源循環組合（最終処分場）に搬入しています。直近の過去2年間の最終処分場への投入量は、搬入配分量を上回っていましたが、令和2（2020）年度では、投入量は搬入配分量を下回りました。

		2018年度	2019年度	2020年度
搬入配分量	(焼却残渣・t)	3,695	3,726	3,720
	(不燃物・m ³)	34	27	0
投入実績量	(焼却残渣・t)	4,736	3,927	3,396
	(不燃物・m ³)	0	0	0
搬入配分量に対する貢献量	(焼却残渣・t)	-1,041	-201	324
	(不燃物・m ³)	34	27	0
体積換算係数 (m ³ /t)	可燃	0.82	0.83	0.85
	不燃	0.00	0.00	0.00

※広域割当量は、毎年ローリングされるので、市計画量と相違します。

⑥令和2（2020）年度搬入実績

焼却量に対するエコセメント化した量と埋立てで処理された埋立量は、以下のとおりとなっています。

		(単位：t)	
エコセメント化した量	3,396	埋立量	0
焼却量に対する割合	10.3%	ごみ量に対する割合	0.0%

※焼却量(32,961 t) = 燃やすごみ(31,960 t) + 破碎可燃(1,001 t)

※ごみ量(35,216 t)

※端数処理のため、誤差が生じることがあります。

(7) 防鳥ネットの無料貸出し（平成31年1月末まで）

カラス・猫などによるごみ等の散乱防止の為、市役所、東部出張所、西部出張所および動く市役所で、防鳥ネットの無料貸出しを行っていましたが（現在は貸出しを終了しています）。

(単位：枚)

2016年度	2017年度	2018年度
955枚	931枚	702枚

(8) 啓発等看板配布

リサイクルセンター、東部出張所、西部出張所および動く市役所で、下記の啓発等の看板を配布しています。



地区以外禁止

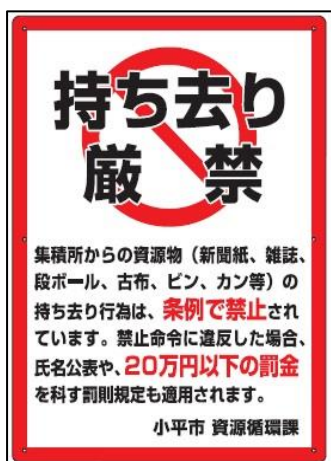
(現在配布のものは居住者以外に変更しています)



ごみ出しルール



品格



持ち去り禁止



不法投棄禁止 (1)



不法投棄禁止 (2)

(単位：枚)

	2018年度	2019年度	2020年度
西地区収集日	68	0	0
東地区収集日	71	0	0
地区以外禁止	44	24	29
ごみ出しルール	41	4	0
持ち去り禁止	18	20	10
不法投棄禁止 (1)	47	128	126
不法投棄禁止 (2)	44	119	112
品格	45	49	28
合計	378	344	305

3 し尿処理事業

(1) し尿処理の概要

小平市は、昭和 40（1965）年度に、し尿及び汚泥の処理を目的として湖南衛生組合に加入しました。その後、公共下水道の敷設の進展と共に処理量は減少しています。

一方、施設の老朽化も進んできており、処理量の減少と併せて、効率的な施設運営を図るため、平成 20（2008）年度に前処理希釈方式による処理能力 6 k1/日の施設に改修しました。

し尿処理量は漸減傾向にあるものの、建設現場での仮設トイレや種々の理由のため下水道接続が困難な状況等の存在により、公共下水道へ全面的に切り替わるには相当の期間を要します。

こうしたことから、湖南衛生組合では、引き続きし尿の共同処理を行うため、平成 26（2014）年度から平成 28（2016）年度にかけて、処理量に見合った新処理施設等の整備、不用施設の解体・撤去及び土地の有効利用を実施する「総合整備事業」を進め、施設を更新しました。

(2) し尿処理施設

名称	湖南衛生組合（湖南処理場）
所在地	武蔵村山市大南 5 丁目 1 番地
電話番号	(042)561-1551
敷地面積	29,719.60 m ² (約 8,990 坪)

(3) し尿等処理量の推移

①し尿処理人口（推計）別内訳

浄化槽、し尿の利用人数は、ともに年々減少傾向にあります。

【し尿処理人口（推計）別内訳】

（単位：人）

年度	2016	2017	2018	2019	2020
浄化槽	226	85	44	32	31
し尿	90	72	68	65	58

※平成 29（2017）年度より、5 年間以上利用がなかった人数を除いています。

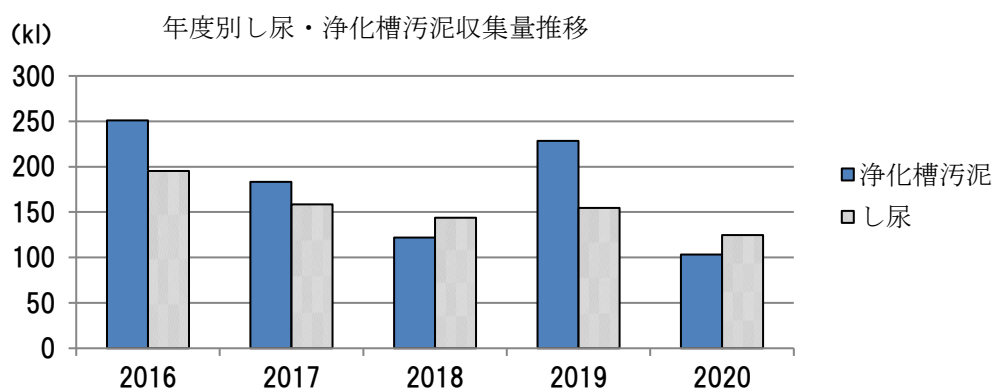
②年度別し尿・浄化槽汚泥収集量推移

し尿・浄化槽汚泥収集量の家庭系収集量は減少傾向にありますが、事業系収集量はその年の工事件数等によって増減するため、平成 28（2016）年度および令和元（2019）年度は市内大規模事業所の工事に伴い、一時的に増加しています。

【年度別し尿・浄化槽汚泥収集量推移】

（単位：k1）

年度	2016	2017	2018	2019	2020
浄化槽汚泥	251.1	183.3	122.0	228.6	103.2
し尿	195.3	158.5	143.8	154.6	124.7
総収集量	446.4	341.8	265.8	383.2	227.9
前年比（%）（総収集量）	11.9	△ 23.4	△ 22.2	44.2	△ 40.5



③年度別汚水収集量推移 | 雑排水・浄化水 (単位: kl)

年度	2016	2017	2018	2019	2020
汚水	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0
前年比 (%)	△ 86.0	△ 100.0	-	-	-

④湖南衛生組合し尿・浄化槽汚泥搬入実績表 | 年度別・組織団体別 (単位: kl)

	武蔵野市		小金井市		小平市		東大和市		武蔵村山市		合計	
	搬入量	搬入割合	搬入量	搬入割合	搬入量	搬入割合	搬入量	搬入割合	搬入量	搬入割合	搬入量	搬入割合
2016	156.7	12%	81.7	7%	442.0	35%	364.5	29%	220.0	17%	1,264.9	100%
2017	203.3	18%	94.2	8%	341.8	30%	314.1	27%	197.2	17%	1,150.6	100%
2018	247.8	23%	80.5	8%	265.8	25%	284.0	27%	177.8	17%	1,055.9	100%
2019	253.0	22%	97.7	9%	383.2	34%	248.8	22%	151.8	13%	1,134.5	100%
2020	202.5	23%	74.2	8%	227.9	25%	243.4	27%	151.4	17%	899.4	100%

(4) 浄化槽清掃件数の推移 (単位: 件)

年度	2016	2017	2018	2019	2020
清掃件数	53	55	40	132	44

4 リサイクル推進事業

(1) リサイクル事業の概要

小平市では平成元(1989)年からモデル地区の分別収集を始め、毎年地区を拡大し、平成5(1993)年1月には市内全域で資源物の分別収集を実施しました。

この間、平成3(1991)年度には生ごみのリサイクルを推進するためコンポスト容器購入費補助(現・食物資源処理機器購入費補助)制度を定め、平成4(1992)年度には協力店で白色トレイ回収を開始、リサイクルフェスティバル実行委員会(後のごみ減量推進実行委員会)も発足し、平成5(1993)年度には「小平市廃棄物の減量及び処理に関する条例」を全面的に改正、廃棄物減量等推進審議会(市民会議の昇格)を設置し、市民と事業者と行政の三位一体となった体制が確立されました。

平成6(1994)年2月にリサイクルセンターがオープンし、廃棄物減量等推進員(愛称、クリーンメイトこだいら)もこの年に設置、平成8(1996)年にペットボトルの資源化施設の増設や、粗大ごみの再生展示販売施設(リプレこだいら)を建設し、平成9(1997)年4月からペットボトルの回収や優良な家具類の再生販売を開始しました。

平成14(2002)年度には、硬質のプラスチック製容器包装の全市収集を開始したほか、緑のリサイクルとして剪定枝のチップ化事業を開始しました。

平成16(2004)年度には小学校の食物資源(生ごみ)一次処理物を使った堆肥を畑で利用し、その有効性と問題点を検証するモデル事業を開始しました。

平成20(2008)年度には落ち葉のリサイクル袋を作成し、希望者には貸出しを実施しました。

平成22(2010)年7月からは、生ごみの資源化を図るため、食物資源循環モデル事業を開始し、平成24(2012)年7月からは、市内全域に対象地域を拡大しました。

また同年には、市制施行50周年記念イベント「こだいら環境フェスティバル」を実施しました。

平成25(2013)年度は、条例を改正し、資源持ち去りの罰則を設けたほか、小型家電リサイクルを、イベント回収及び日時場所を予め定めて行う拠点回収で開始しました。

平成26(2014)年度は、小型家電リサイクルにおいて国の実証事業に参加し、9月に市役所、東部市民センター、西部市民センターに回収ボックスを設置しました。11月から、これまでごみとして収集していたスプレー缶・ガスカートリッジ缶、ライター、アルミ製以外の金属製なべ・やかん・フライパン、ぬいぐるみ・かばん・帽子・ネクタイ・ベルト、羽毛ふとん、内側がアルミコーティングされている紙パックについて、資源とする分別変更を行いました。また、2月からは、小型家電リサイクル法に基づく認定事業者(リネットジャパン株式会社)と協定を締結し、宅配便による小型家電の自宅回収サービスについて案内を開始し、資源化推進を図りました。

そして、小平市、東大和市、武蔵村山市における資源物処理の共同化、適正処理を推進するため、3市および小平・村山・大和衛生組合と共同で同年に策定された「3市共同資源化事業基本構想」により、資源物処理施設等の整備・更新について方針等を定めました。

平成27(2015)年度は、老朽化等によりリサイクルセンターの施設更新を行うため、「小平市リサイクルセンター整備基本計画」を策定しました。また、小型家電リサイクルにおいて、都の補助金を活用し、市内図書館6か所に回収ボックスを増設し、事業推進を図りました。その他、小平・村山・大和衛生組合により「(仮称)3市共同資源物処理施設整備実施計画」が策定されました。

平成28(2016)年度は、未利用食品の回収を「フードドライブ」と称し、こだいら環境フェスティバルで本格実施し、食品ロス削減の啓発を行いました。

また、同年には食物資源循環モデル事業が、参加目標世帯数1,000世帯を概ね達成したことから、平成29(2017)年度より「食物資源循環事業」として本格実施しました。本事業由来の堆肥を使って市内で栽培した「資源循環野菜」はイベントで販売し、資源循環をPRしています。

そして、小平・村山・大和衛生組合により小平・村山・大和衛生組合資源物中間処理施設の設計・建設工事が開始されました。

また、平成29(2017)年3月には、小型家電リサイクルにおいて、「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」(東京2020組織委員会が実施する入賞メダルを、小型家電から抽出されるリサイクル金属を活用して制作する、国民参画型のプロジェクト)に参加するため、都市鉱山メダル連携委員会に入会しました。

平成29(2017)年度は、リサイクルセンターの設計・建設工事について、技術提案型総合評価方式により事業者を選定し、設計協議を行うとともに工事に着手しました。

平成30(2018)年度は、リサイクルセンターの設計・建設工事を引き続き行い、平成31(2019)年3月にしゅん工しました。また、令和元(2019)年度以降の新施設の運営に係る長期包括運営業務委託について、技術提案型総合評価方式による事業者選定を行い、運営準備を行いました。さらに、エコショップ認定制度を創設し、市内販売店によるリサイクル活動を推進、家庭ごみ有料化に備えた資源化のルート拡大を行いました。

令和元(2019)年度は、4月から新しいリサイクルセンターの稼働を開始するとともに、リプレこだいらと市の担当部署(資源循環課)もリサイクルセンターへ移転し、陶磁器食器や廃食油、小型家電等の常時回収を開始し、同じく4月から開始された家庭ごみの有料化と合わせ、さらなるごみの原料とリサイクルの推進に努めています。

また、同年4月に小平・村山・大和衛生組合資源物中間処理施設がしゅん工し、資源物の受け入れを開始しました。

令和2(2020)年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、環境フェスティバルなどのイベントを中止または縮小し、啓発物の作成や収集車を使った放送を通じて感染症対策に努めました。

その他、小平市では、市民ボランティアの方の協力をいただきながら、フェスティバルやフリーマーケットの開催、ごみ・リサイクル情報誌「ごみらいふ」の発行、講習会(食物資源堆肥化、廃油を使った石けん作り、廃傘を使ったマイバッグ)等さまざまな事業を展開するとともに、クリーンメイトと協働して不法投棄監視ウィーク事業、資源持ち去りパトロール、マイバッグキャンペーン、収集車両用マイバッグ啓発マスクの作成、イベントでの啓発活動を実施しました。

また、平成23(2011)年6月からは、予め日時と場所を定めて行う、拠点回収による陶磁器リサイクルを開始して、ごみ減量とリサイクルの推進を図ってきました。平成25(2013)年11月から小型家電、平成27(2015)年1月から雑貨類、3月から廃食油、未利用食品を回収品目に追加し、名称を「リサイクルきゃらばん」と称し、実施しました。

なお、ごみ減量推進実行委員会は、平成29(2017)年度の事業を終了後、平成30(2018)年4月に解散となりました。委員会が主催していた各事業は平成30(2018)年度から市主催となっています。



(2) 資源回収売払金の推移 | 行政回収

各資源物の市況により、売払い金は毎年大きく変動します。

(単位：円)

年度	2016	2017	2018	2019	2020
生ビン	134,921	129,453	116,055	140,822	144,601
カレット (透明)	0	0	0	0	0
カレット (茶)	0	0	0	0	0
カレット (その他)	-1,580,040	-1,393,920	-1,693,620	0	0
アルミ缶	29,906,890	38,019,311	36,577,420	29,991,561	32,834,040
スチール缶	2,127,343	3,856,872	4,819,731	3,711,870	4,239,645
新聞紙	7,809,320	7,462,900	8,612,365	8,614,250	4,547,870
雑誌	31,112,480	33,999,240	28,330,860	21,289,580	10,838,130
ダンボール	17,870,570	19,668,840	19,835,295	12,192,310	9,743,300
古布	5,156,060	5,478,095	6,983,865	5,727,637	3,514,145
ふとん	106,430	110,755	140,020	89,995	115,110
紙パック	61,710	41,800	36,600	54,390	29,750
白色トレイ	0	0	0	0	0
キャップ	46,425	45,950	45,100	3,950	0
その他	576,525	748,780	758,170	907,040	178,170
小計	93,328,634	108,168,076	104,561,861	82,723,405	66,184,761
消費税	7,466,284	8,653,439	8,364,943	7,398,545	6,618,472
ペットボトル*	15,468,014	24,894,228	26,503,602	0	0
再商品合理化合理化拠出金*	1,816,071	3,039,658	156,526	0	0
小型家電売却金	30,348	34,020	6,079	0	59,477
廃食油売却金	0	0	178	1,103	2,425
合計	118,109,351	144,789,421	139,593,189	90,123,053	72,865,135

※カレット (その他) の逆有償分については、令和元 (2019) 年度からカレット残渣処理委託料 (歳出予算) として計上しているため、本表に含まれません。

※ペットボトルの有償入札拠出金および再商品合理化合理化拠出金は、資源物中間処理施設の稼働に伴い、令和元 (2019) 年度から、小平・村山・大和衛生組合が扱うようになりました。

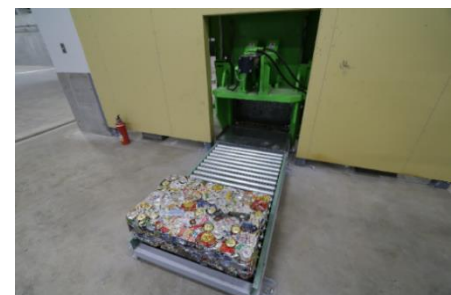
(3) リサイクル施設

①小平市リサイクルセンター

施設名称	小平市リサイクルセンター
住所	小平市小川東町5丁目19番10号
用途地域	準工業地域
主要用途	工場
構造・規模	鉄骨造2階建
敷地面積	11,447.00 m ²
建築面積	2,916.31 m ²
各階床面積	1階：2,737.63 m ² 、2階：1,347.47 m ²
延床面積	4,085.10 m ²
処理能力	ビン 12.6 t/5 h、 カン 5.6 t/5 h
建設費	約13億6,267万円
建設年度	平成30(2018)年度
主要機器	供給・搬送コンベヤ 破袋機・小袋破袋機 除袋機 磁選機 アルミ選別機 カンプレス機



リサイクルセンターの外観



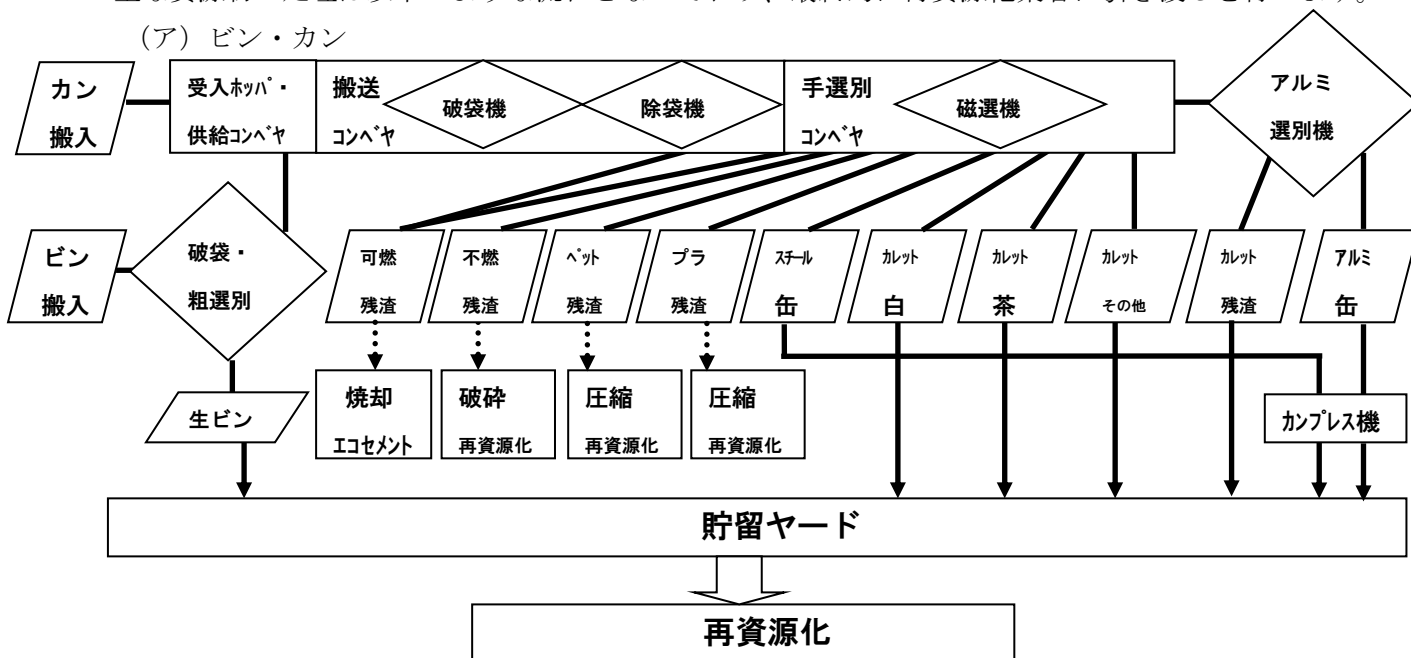
プレスされた缶類

小平市リサイクルセンターは、ビン・カンを中心とした資源物の選別・圧縮等の中間処理を行う資源化エリアと、資源循環課窓口、各種見学設備、リプレこだいらを備えたプラザエリアにより構成されています。

【リサイクルセンター再資源化フロー】

主な資源物の処理は以下のような流れとなっており、最終的に再資源化業者に引き渡しを行います。

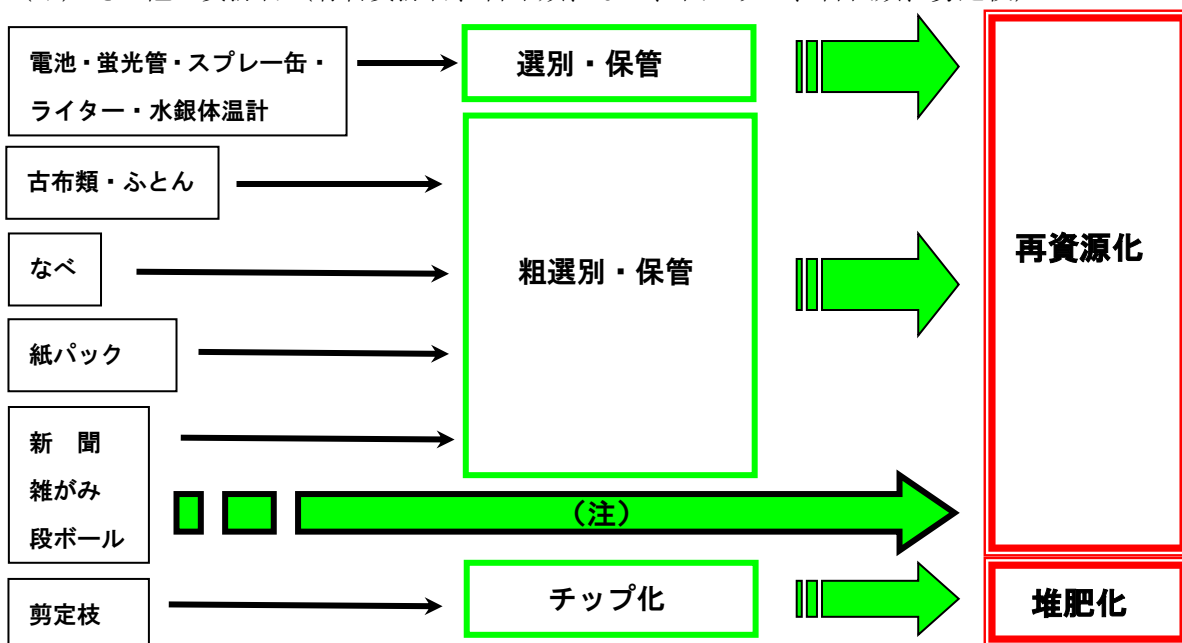
(ア) ビン・カン



※ビン、カンの選別作業は、同一ラインで処理日・時間帯を分けて行っています。

※ ……の処理は、他の施設で行っています。

(イ) その他の資源物（有害資源物、古布類、なべ、紙パック、古紙類、剪定枝）



注) 古紙類は収集後、リサイクルセンターを経由せず、再資源化業者へ直納しており、市民による直接持込分のみリサイクルセンターで受け入れています。（持込分は古紙類全体の約0.3%程度）

②小平・村山・大和衛生組合資源物中間処理施設

施設名称	小平・村山・大和衛生組合資源物中間処理施設 (愛称：エコプラザスリーハーモニー)
住 所	東大和市桜が丘2丁目122番地の2
用途地域	工業地域
主要用途	ゴミ焼却場その他の処理施設
敷地面積	4,311.64 m ²
構造・規模	鉄骨造・地上3階建
建築面積	1,878.95 m ²
1階床面積	1,814.52 m ²
2階床面積	577.15 m ²
3階床面積	1,115.90 m ²
延床面積	3,612.62 m ²
処理能力	容器包装プラスチック系列 17 t/5 h ペットボトル系列 6 t/5 h
建設費	約25億4,318万円(消費税込み)
工期	平成29(2017)年1月から 平成31(2019)年4月
主要機器	資源物クレーン 資源物供給コンベヤ 破袋機・破除袋機 比重差選別機 手選別コンベヤ 圧縮梱包機 集じん・脱臭・VOC除去設備



資源物中間処理施設の外観



ベール化(圧縮)されたペットボトル

小平・村山・大和衛生組合資源物中間処理施設は、小平市、東大和市、武蔵村山市の家庭などから排出されるペットボトルとプラスチック製容器包装の選別・圧縮・梱包・保管を行う施設です。また、資源の有効利用や資源循環の仕組みを学べる研修室などがあり、環境啓発活動も行える施設となっています。

(4) 資源回収補助金交付状況 | 集団回収

自治会、子ども会、マンション管理組合など地域の団体に行政に頼らず自主的な資源回収を補助する制度です。

①補助金交付単価額 | 令和2(2020)年度

品目	単価	品目	単価	品目	単価
繊維類	7円/kg	段ボール	*9円/kg	カレット	7円/kg
新聞	*9円/kg	牛乳パック	9円/kg	金属類	7円/kg
雑誌類	*9円/kg	ビン類	7円/本	アルミ缶	25円/kg

※引取業者選定依頼書を提出した場合、新聞・雑誌類・段ボールは6円/kg

②年度別回収実績

年 度	2016	2017	2018	2019	2020
回収量 (kg)	2,043,874	2,004,790	2,041,516	2,179,079	1,932,111
補助金交付額 (円)	16,054,120	15,905,432	16,234,402	17,250,441	15,149,779
交付団体数 (団体)	115	116	123	121	113

③品目別回収量

(単位: kg)

年 度	2016	2017	2018	2019	2020
繊維類	78,202	78,121	92,722	110,807	106,327
紙 類	1,920,804	1,881,752	1,903,359	2,014,808	1,768,641
ビン類	0	0	0	0	0
カレット	5	0	116	127	148
金属類	12,964	12,616	12,082	15,704	16,652
アルミ缶	31,899	32,301	33,237	37,633	40,343
計	2,043,874	2,004,790	2,041,516	2,179,079	1,932,111

④令和2(2020)年度 資源回収補助金交付団体数

【交付団体数】

上半期	112 団体
下半期	108 団体



(5) 食物資源循環（モデル）事業資源化実績

家庭から出る生ごみを分別収集し、堆肥化する事業です。

モデル事業として毎年 100 件程度の拡大を続け、平成 28（2016）年度に参加登録世帯数がおおむね 1,000 世帯となりました。平成 29（2017）年度から事業を本格実施とし、その後は同規模で継続実施していましたが、令和 2（2020）年度には規模を拡大し、1,246 世帯となりました。

	2016	2017	2018	2019	2020
参加登録世帯数	989	950	1,000	1,000	1,246
資源化量(t)	60	61	71	82	93



(6) 食物資源（生ごみ）処理機器購入費補助金交付実績

平成 26（2014）年度以降は業務用の申請はなく、年間の申請件数は 100 件以上で推移しています。

年度	基数	補助額(円)	補助金交付対象改正の経緯
2016	40	741,800	全機種対応 購入金額の1/2
2017	51	896,500	上限 30,000円（家庭用） 300,000円（業務用）
2018	114	1,986,200	※処理機器は、日量処理能力が5 kg未満のものを家庭用、5 kg以上のものを業務用としています。
2019	194	2,544,600	
2020	150	1,987,000	※上記の区分は、2014年度以降は10 kgに改めました。

令和 2（2020）年度 機種別補助交付実績

機種	基数	補助額（円）
コンポスター系機種	9	39,400
ボカシ(EM)セット	6	9,300
電動型（乾燥型）	99	1,832,200
電動型（分解型）	1	30,000
家庭その他	35	76,100
業務用	0	0
合計	150	1,987,000



(7) 陶磁器食器回収実績

予め日時と場所を定めて実施する拠点回収に加え、平成 31（2019）年 4 月からリサイクルセンターでの常時回収を開始しました。

年度	2016	2017	2018	2019	2020
拠点回収回数(回)	6	6	7	6	5
拠点回収量(kg)	5,370	5,240	6,759	3,013	4,287
常時回収量(kg)	—	—	—	11,497	14,083
回収量合計(kg)	5,370	5,240	6,759	14,510	18,370

※拠点回収はこだいら環境デー、リサイクルきゃらばん（東部公園、小川西グラウンド、リサイクルセンター、東部公園）で回収したものの合計です。

(8) 小型家電回収実績

「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」は平成 31（2019）年 3 月 31 日で終了しましたが、小型家電の回収は継続しています。

回収日から資源化まで時差があるため、年度内の回収量と資源化量は一致していません。

年度	2016	2017	2018	2019	2020
回収量(kg)	2,988	3,530	5,063	7,576	9,650
資源化量(kg)	2,810	3,150	5,630	8,070	8,440

※回収方法：市役所、東部市民センター、西部市民センター、リサイクルセンターに加え、中央・喜平・上宿・津田・大沼図書館、なかまちテラス、鈴木公民館に回収ボックスを設置して回収、こだいら環境デー、リサイクルきゃらばん（東部公園、小川西グラウンド、リサイクルセンター、東部公園）での拠点回収

(9) リプレこだいら販売実績 | 令和 2（2020）年度

ごみとして処分される粗大家具のうち、一部優良なものを修理し、展示販売しています。

品目	点数	販売金額（円）	品目	点数	販売金額（円）
和洋タンス	15	157,300	机	66	225,200
整理タンス	89	487,800	いす	490	1,062,100
その他タンス	26	128,700	ベッド	69	258,800
サイドボード	8	68,000	その他	792	1,071,450
食器棚	44	292,900	修理	95	342,050
本棚・整理棚	204	498,650	自転車	157	1,403,260
テーブル・座卓	220	712,300	自転車修理	199	443,200
			計	2,474	7,151,710

（公社）小平市シルバー人材センター資料より

(10) 年賀ハガキ等回収実績

不要になっても、個人情報がかっているはがきは手放しにくいものですが、はがき回収ボックスに投函していただくと、一旦市で預かり、紙類のリサイクル工場に持って行きます。

（単位：kg）

年度	2016	2017	2018	2019	2020
郵便局計	468.0	356.0	420.5	355.0	354.9
市役所本庁舎	343.5	411.0	335.0	295.0	115.0
東部出張所	157.5	209.0	217.7	205.0	205.0
西部出張所	51.1	153.0	109.0	100.0	100.0
計	1020.1	1129.0	1082.2	955.0	774.9

※郵便局実施期間 暑中見舞いハガキ：8月～9月

年賀ハガキ：1月～2月

5 家庭ごみ有料化及び戸別収集への移行

(1) 家庭ごみ有料化及び戸別収集への移行の概要

多摩地域では、高額なごみ処理事業費の削減や最終処分場の延命化といった共通の課題に対応し、ごみゼロ社会を目指すため、東京都市長会が平成 13（2001）年 10 月に、「平成 15（2003）年を目途に全市において家庭ごみの有料化を進める。」との政策提言を行っています。こうした背景から、多摩地域においては、平成 30 年度までに既に 26 市中 24 市が家庭ごみ有料化を実施しています。

小平市においても、平成 26（2014）年 3 月策定（平成 30（2018）年 3 月改訂）の「小平市一般廃棄物処理基本計画」の中で、家庭ごみ有料化及び戸別収集への移行を重点施策の一つとして位置付け、令和元（2019）年度に、全量プラスチック製容器包装の分別収集・資源化とともに実施いたしました。

全量プラスチック製容器包装の分別収集・資源化については、小平・村山・大和衛生組合において、3 市が共同してプラスチック製容器包装及びペットボトルの処理を行うため、東大和市内に平成 31（2019）年 4 月 1 日からの稼働を始めた「小平・村山・大和衛生組合資源物中間処理施設」により、小平市の全量プラスチック製容器包装の分別収集・資源化が行えることとなりました。

また、小平市廃棄物減量等推進審議会からは、平成 28（2016）年 4 月に、「令和元（2019）年度での実施に向けて、市としての体制を整えた上で、実施内容について十分な検討・準備を進めること。」との答申を、平成 30（2018）年 2 月に、「市民に対して十分な周知を行った上で、家庭ごみ有料化及び戸別収集へ円滑に移行することを希望する。」との答申を受けています。

そうしたことから、小平市では、平成 29（2017）年 4 月に、『「家庭ごみ有料化及び戸別収集への移行」についての基本方針』を策定し、令和元（2019）年度を目途に家庭ごみ有料化及び戸別収集への移行を実施するとした方向性を定め、具体的な実施時期や有料化の対象範囲、手数料負担の仕組み等の詳細な事項については、実施計画にて定めることとしました。

実施計画については、小平市廃棄物減量等推進審議会等の意見を取り入れながら、実施内容についての検討を重ね、平成 29（2017）年 9 月に素案を策定しました。素案に対しては、市民説明会やパブリックコメントを実施し、広く市民から聴取した意見や要望を踏まえ、平成 30（2018）年 3 月に「小平市家庭ごみ有料化及び戸別収集への移行実施計画」を策定し、平成 31（2019）年 4 月 1 日から家庭ごみ有料化及び戸別収集へ移行しました。

(2) 家庭ごみ有料化及び戸別収集関連予算（抜粋）

①令和 2（2020）年度 | 決算額

収入	
家庭系有料ごみ処理手数料（ごみ袋）	496,595,900 円
計	496,595,900 円
支出	
会計年度任用職員(アシスタント職)	260,400 円
【減免事務補助】	
資源とごみの収集カレンダー・パンフレット等	105,000 円
音訳・点訳謝礼	
消耗品費	31,590 円
印刷製本費	77,220 円

集積所パネコート設置	418,000 円
減免対象者決定通知用郵送費	199,311 円
指定収集袋販売手数料	43,696,488 円
資源とごみの収集カレンダー・パンフレット等 全戸配布業務委託	2,364,751 円
資源とごみの収集カレンダー・パンフレット 作成業務委託	9,757,000 円
指定収集袋減免に係る事務等業務委託	643,500 円
指定収集袋等製造・管理等業務委託	134,204,148 円
指定収集袋等受注収納等業務委託	8,800,000 円
公共用地境界確定等測量業務委託	1,760,000 円
ごみ収集運搬業務委託（戸別収集増加分）	135,608,000 円
資源物収集運搬業務委託（戸別収集増加分）	56,186,000 円
3R 推進施策（資源循環推進事業）	220,671,071 円
3R 推進施策（食物資源資源化推進事業）	15,639,233 円
計	630,421,712 円

②家庭ごみ有料化及び戸別収集に関する決算額推移

年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
歳入	128,861,100 円	544,050,300 円	496,595,900 円
歳出	102,013,161 円	658,680,905 円	630,421,712 円

※平成 30 年度は準備事業（歳入と歳出の差 26,847,939 円については、令和元年度の歳出超過分へ一般財源として充当）。

